

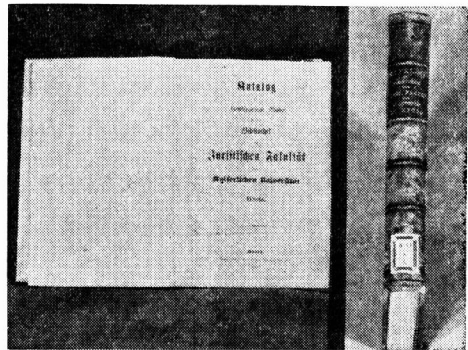
## 第4章 事業

### 第1節 出版

本館が蔵書の質においても、また量においても国内屈指の図書館であることはいうまでもないが、とくに質においては重要文化財をはじめ多くの貴重書を架蔵している。本館はこれら学術上の価値の高い蔵書を学内外に広報し、研究者の利用に供するため、図書館案内をはじめとして、蔵書目録・影印本等を刊行してきた。以下本館刊行の出版物を刊行年順に列記し、それぞれについて簡単な説明を試みよう。

京都帝国大学法科大学欧文図書目録（*Katalog der Fremdsprachigen Bücher in der Bibliothek der Juristischen Fakultät der Kaiserlichen Universität zu Kyoto*） 明治37年3月刊（1904）

京都帝国大学法科大学が明治32年より明治35年9月までに受入れた欧文図書の目録である。明治36年5月法科大学図書館分館図書主任岡松参太郎教授が編纂を監修し、本館の秋間玖磨書記が、嶋文次郎館長の協力を得て、原稿の作成、印刷の校正、その他



京都帝国大学法科大学欧文図書目録

編成の一切を担当して、同年12月印刷に付し翌明治37年3月に刊行した。

本目録は岡松教授の序文にあるように、分類・記述等に多少の誤謬があるが、欧文図書印刷目録としてはわが国最初のものといわれ、欧文図書目録編纂史上注目すべき画期的事業である。

ついで大正2年3月、法科大学開設以来明治43年末までに受入れた欧文図書を、本目録に追録して増訂し、第2版第1巻を出した。さらに昭和7年12月には、明治44年1月より大正8年3月末までに受入れた欧文図書を追録して、第2版第2巻を、また昭和10年5月より同10月にわたって大正8年4月より昭和3年12月までに法学部、および経済学部に登録した欧文図書を増補して、第2版第3巻を刊行した。

第2版第2巻以降題名を“*Katalog der Fremdsprachigen Bücher in der Bibliothek der Juristischen und der Wirtschaftswissenschaftlichen Fakultät der Kaiserlichen Universität zu Kyoto*”（京都帝国大学法学部経済学部欧文図書目録）と変更した。第2版第2巻以降の目録は、大正8年創設の経済学部所属の欧文図書を収蔵したからである。

#### 京都帝国大学図書館案内 明治41年4月刊

図書館創立当初より明治40年2月までに図書、標本等を寄贈した全国各地の個人、または団体に配布した本館の案内書である。本文28頁、口絵図版2葉の片々たる小冊子に過ぎないが、明治41年4月の刊行で、本館最初の案内書である。

本書刊行の趣旨、およびその内容は、次の序文によっておおよそ想像することができる。

此案内ハ図書寄贈者諸氏ニ贈ランガタメ編纂セルモノナリ。諸氏モシ之ニヨリテ寄贈ノ図書ガ本館ニ入りテ後如何ニ処理セラルルカラ知り玉ハバ即幸甚シ

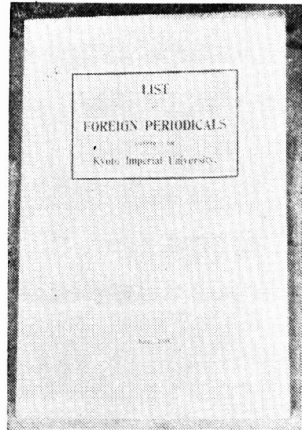
沿革、建築、閲覧、貸付、分類、目録等の14項目を収録し、特に寄贈芳名の一項目を設けている。本書は寄贈者の厚意に対する答礼用として刊行されたものであるが、また本書の配布によって、本館の活動状況を広く江湖に宣

伝しようとするPRをかねたものであった。

京都帝国大学外国逐次刊行書目録 明治42年  
6月刊

本学法学部、医学部、文学部、理工科学部の各部局と本館が架蔵する外国逐次刊行書の総合目録で、明治42年6月の刊行である。本学創立以来明治43年3月末までに受入れた、欧米の逐次刊行書を収録している本学最初の逐次刊行書目録である。

なお本書の欧文標題は“List of Foreign Periodicals received at the Kyoto Imperial University”である。



京都帝国大学外国逐次刊行書目録

京都帝国大学  
附属図書館 増加図書目録月報

明治43年9月中旬以後に受入れられた全学図書館の総合目録である。同年10月より編成に着手し、和漢書は「京都帝国大学附属図書館 増加図書目録月報」として、また洋書は“Monthly Bulletin of Books added to the Imperial University Library of Kyoto”として、同年11月それぞれ第1巻第1号を刊行した。

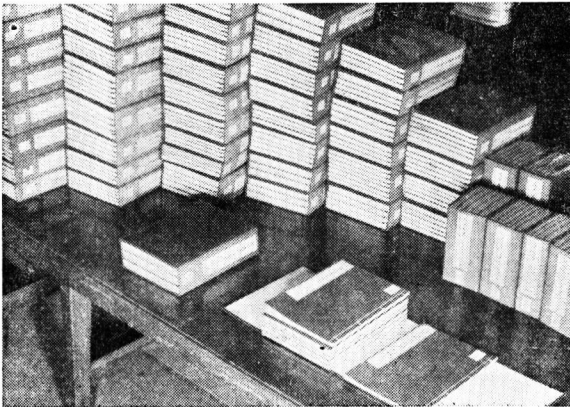
明治43年11月創刊以来休刊に至るまで、和漢書目録は13年間、また洋書目録は20年間の長期にわたって継続刊行された。その間和漢書目録は「京都帝国大学附属図書館 和漢書目録月報」を、第2号より「京都帝国大学附属図書館 増加図書月報」と誌名の一部を改め、大正3年9月より月刊を年4回の季刊とし、誌名も「京都帝国大学附属図書館 増加和漢図書年報」と変更した。大正8年2月、月刊に復するとともに、誌名を「京都帝国大学附属図書館 和漢図書月報」と3度改称した。大正12年第7号をもって休刊するまで、洋書図書月報と共に、最新の受入図書を学内外に速報し、研究に資することが少なくなかった。

洋書目録もしばしば誌名を変更した。“Monthly Bulletin of Books added to the Imperial University Library of Kyoto”は、大正3年8月より月刊が季刊となり、誌名も Monthly を Quarterly と一部変更した。大正8年2月には月刊に復するとともに、誌名も最初のものに復帰した。その後12巻3号まで刊行されたが、昭和5年3月休刊した。

#### 大典奉祝陳列品目録 大正4年11月刊

大正天皇即位の大典を奉祝するため、大正4年11月12、13日の両日、本学文科大学陳列館および本館の尊攘堂において、人文科学に関する稀書、珍籍、標本等の展示会を開催した。本書はその展示図書および陳列標本の解題目録である。

#### 昌平叢書 682巻246冊 大正6年刊



昌平叢書

昌平叢書は岩崎久弥男爵が大正6年に寄贈した、島田蕃根旧蔵の昌平費官板板木 6,565枚を板下として、京都の山田聖華房（茂助）に摺刷させた36種246冊の漢籍の叢書である。

30部を限定出版した。

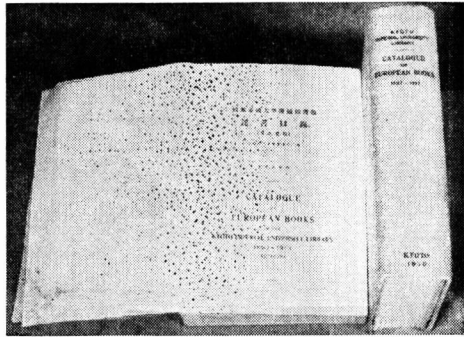
官板は旧幕、特に昌平費で刊行した書籍の名称であるが、この官板の板木は維新の際に多く散逸し、また海外に流失して煙滅の危機に瀕していた。島田蕃根はこのことを遺憾として、私財を投じて残存の板木を購入、この貴重な古文化財を滅亡から救ったのである。

番根旧蔵の板木が岩崎男爵の手に帰した事情は明らかでないが、この板木は昌平饗開雕の記念として、種類別に整理して別棟の本館板木庫に保管している。わが国印刷史上の貴重な標本であると同時に、本邦漢文学史研究に貴重な資料を提供するものである。

大正6年刊行後、年と共に印本は影をひそめ、巷間において、この叢書を手に入れることはほとんど不可能であった。その後およそ36年を経て、昭和28年8月昌平叢書中の「李長吉歌詩」一種を選んで重印し、この叢書の重印に対する学界の熱望の一端に答えた。

京都帝国大学  
附属図書館 **洋書目録** 大正8年3月刊

本学の創立より大正2年(1913)3月末までに登録した本学全体の洋書を、著者名のアルファベット順に排列した本学の総合洋書目録である。法科大学所属の洋書は大正2年3月刊行の洋書目録に収められているので、本目録



京都帝国大学附属図書館洋書目録

には収録されていない。編纂の体裁は主として **British Museum** の図書目録に範をとり、記述様式は簡明を旨としている。

**尊攘堂遺品仮目録** 昭和3年11月刊

明治28年8月12日、品川弥二郎子爵が自ら編成浄書した尊攘堂藏品目録の原本を翻刻したものである。原本の巻首より第114号までは子爵の自筆であるが、第115号以下は余人の筆である。原本の第161号より第632号までは書籍の部であるが、その多くは明治以後の印本であるため、本目録には収載されていない。

なお本目録は昭和3年10月の尊攘堂特別祭典に伴う尊攘堂藏品大展観を機

として発行されたもので、祭典参列者、来観者に尊攘堂蔵品の案内書として配布したものである。

#### 尊攘堂誌 昭和3年11月刊

吉田松陰歿後70年に当る昭和3年10月27日、吉田松陰、品川弥二郎両先賢および勤王諸家を祀る大祭を、尊攘堂において執行した。時あたかも大典期間であったため、秩父、高松両宮をはじめとして滞洛中の朝野名士多数の参列があり甚だ盛儀であった。

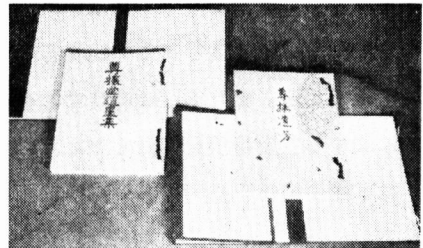
しかし昭和3年は尊攘堂創立以来40余年を経過し、尊攘堂の詳しい由来や沿革を知る者はほとんどなかった。尊攘堂保存委員会はこのことを遺憾とし、堂の由来、祭典、蔵品および子爵の略伝等の執筆を本館の金子正道司書に委嘱した。この要請に答えて金子司書が執筆編纂したものが本書である。本書は本文28頁の小冊子に過ぎないが、尊攘堂の内容が簡明に紹介されている。

なお昭和6年9月「尊攘堂補遺」が刊行されたが、本文6頁のパンフレットである。本書は同年5月東伏見宮大妃殿下が尊攘堂に來臨されたことを記念して刊行したものである。

#### 尊攘堂遺墨集 昭和3年11月刊

昭和3年11月18、19日の両日尊攘堂の特別祭典を行い、その際蔵品を展示し、特に祭典に参列した来賓の諸士に頒布するために、尊攘堂保存委員会が刊行したものである。編纂は本館の山鹿誠之助司書官と市村有济嘱託が担当した。

幕末維新の先賢諸士の遺墨およそ82点の図版を主体とし、その由来、または内容に関連する史実、諸士の略伝等の解説を添えてい



左 尊攘堂遺墨集 右 尊攘遺芳

る。本書は同時に印行した尊攘堂誌、およびその遺品仮目録と併読すると尊攘堂の由来と、その所蔵品の大体を知ることができる。

#### 台 覧 品 目 録 昭和3年11月刊

昭和3年11月18日執行した尊攘堂大祭の前日に当る17日、秩父宮、同妃、高松宮、ならびに賀陽宮、同妃五殿下が尊攘堂において勤王志士の遺墨を台覧された際贈呈した出品目録で、出陳品名を収録している。

有栖川宮熾仁親王筆「尊攘」二字の額他27点を掲載した本文4頁のパンフレットであるが、特製の紙を用いて結綴とし、台覧の案内として特に謹製したものである。

#### 満蒙関係図書目録 昭和7年8月刊

本館所蔵の満洲、蒙古に関する文献目録で、本学の各学部、教室、研究所等に架蔵のものは含まれていない。収載範囲は本館創設以来昭和7年4月現在までに受入れられた和漢図書である。昭和7年以降の受入図書についても、追補続刊を予定していたが、ついに実現を見なかった。謄写刷55頁の質素な小冊子に過ぎないが、満蒙の政治経済、歴史地理、宗教教育等、すべての分野におよび、満蒙研究の一参考資料である。

#### 尊攘堂之由来及年譜 昭和12年10月刊

昭和12年10月の尊攘堂大祭に当り、その創立50周年を記念するために刊行された本文6頁、年譜10頁、図版2葉の小冊子である。

本書は「尊攘堂の由来」と「尊攘堂五十年譜」の2編よりなり、「尊攘堂の由来」は昭和3年11月大祭執行の際刊行した「尊攘堂誌」を集約補修したものである。また年譜は尊攘堂の重要事件と、吉田松陰、品川弥二郎両先賢に関する主要事項を摘録したものである。題簽は羽田亨館長が揮毫し、編纂は本館の金子正道司書が、尊攘堂委員の委嘱を受けて担当した。

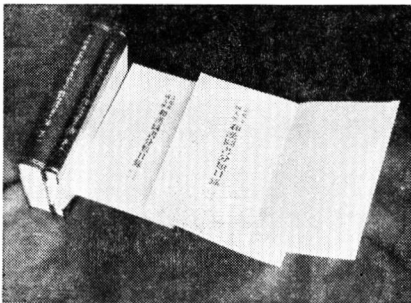
本館案内書は明治41年4月1日始めて刊行されたが、30年を経た昭和13年3月、「<sup>京都帝国大学</sup>附属図書館案内 学生用」が刊行された。最初の案内書は図書館の現況を報告し、あわせて本館の活動の宣伝広報を目的としたものであるが、本書は全く前者とはその趣きを異にし、学生のための図書館利用の手引用である。内容は、本館の沿革略、案内、および附表の三部からなり、案内は(1)図書の種類、(2)館内規律、(3)仮閲覧室、(4)第2閲覧室、(5)貸付および書庫検索の5項目を内容としている。附表には分類表その他がある。

本案内書は本文に多少の増補修正を施して、昭和15年まで、3年継続刊行して学生に配布し、本館利用の伴侶とした。この案内書は吉田孫一司書官の企画で、その執筆編集も、主として同人の手になるものである。

昭和16年以後は、本学発行の「学生便覧」中に吸収され、その後昭和34年「京都大学附属図書館要覧」が出現するまで、その刊行を中絶した。

京都帝国大学附属図書館和漢書目録 第1 総記 昭和10年末現在  
昭和13年3月刊

大正8年刊行の本学所蔵洋書目録に対する本学所蔵和漢書目録の刊行が、



京都帝国大学和漢書目録 第1～第4

早くより学内外より待望されていた。本館においても全学的な和漢書綜合目録の重要性を痛感し、すでに大正13年より和漢書綜合目録の編成を企画し、その実現に努力したが、容易に目的を達することができなかった。しかし昭和9年5月よりいよいよ「京都帝国大

学附属図書館和漢書目録 第1総記」の編纂に着手した。

山鹿誠之助司書官の監修の下に、佐々木乾三、岩永大亮、上田敬一郎、鈴鹿蔵、松森秀雄が編纂に従い、翌昭和10年には本事業も次第に軌道に乗ってきたが、昭和11年閲覧室焼失のため、一時停止の止むなきに至った。翌12年



より柴田清，山本辰一，山元一郎，青山清が前任者より編纂を引継ぎ，事業の推進につとめ，昭和13年に完成した。本目録は本文690頁，書名索引245頁の本学最初の和漢書綜合目録で，昭和10年末現在の本学所蔵の総記に属する和漢図書を収録している。

**京都帝国大学附属図書館和漢書目録 第2 理学** 昭和12年末現在  
昭和14年12月刊

昭和13年3月刊行の「京都帝国大学附属図書館和漢書目録」に引続いて，同年6月理学部門の目録の編成に着手した。翌14年5月中旬には原稿の増補校合等その整理を終り，印刷に着手して9月中旬本文の校了，索引の作成を終り，12月和漢書目録 第2 理学 を刊行した。本書は本文 283 頁，書名索引55頁で，昭和12年末現在の本学所蔵の理学に属する和漢図書を収録している。なお昭和12年2月山鹿誠之助司書官の退官により吉田孫一司書官が新たに本目録の刊行を主宰し，山本辰一，柴田清，藤田至善，山元一郎が編纂を担当した。

**京都帝国大学附属図書館報 第1～5号** 昭和15年7月～10月刊

昭和15年7月「京都帝国大学附属図書館報」第1号を刊行し，本館新着図書の速報を主とし，閲覧統計・報告等載せ，学内各局部に配布した。この館報は謄写刷で，7月15日第1号を発行し，学内各方面からその発展を期待されていたが，支那事変による物資欠乏等の事情もあって，同年10月わずかに第5号をもって中止された。

皇紀2600年  
念 尊攘堂誌 昭和15年10月刊

昭和15年（1940）は皇紀2600年に当り，また3年毎に執行される尊攘堂大祭の年であり，また本年の大祭は旧祭典委員から本学が引継いだ最初の年であった。

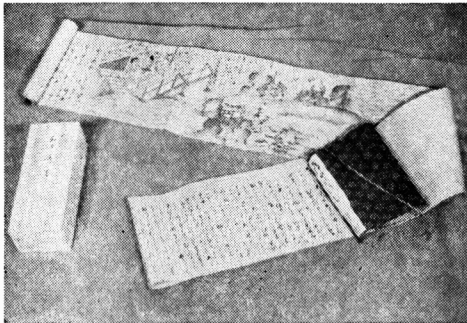
時あたかも第2次世界大戦の前夜で，国家総力を挙げて戦うために，愛国精神の昂揚が最も要請された時代であった。このため殉国志士の顕彰を本旨とする尊攘堂の設立の由来を語る尊攘堂誌を刊行して，国民精神の作興に資

せんとしたのである。

本書は昭和3年刊行の尊攘堂誌と同一内容であるが、巻末に昭和12年刊行の「尊攘堂之由来及年譜」中より重要事項を抜萃して編成した「年譜」を添付している。

### 雁の草子 昭和15年11月刊

昭和15年皇紀2600年を記念して、影印頒布会を組織し秘蔵の貴観書「雁の草子」を影印複製して会員に頒布した。原本「雁の草子」は慶長7年(1602)



雁の草子

6月に書写された天下の孤本である。近古小説のうちの異類物語で、雁の一生を擬人化した未刊の絵巻である。

複製は用紙、表装等すべてにわたって原本の古雅と風趣を再現するよう特別に配慮した。例えば用紙は越前五箇荘

の別漉にし、表紙は金糸使用禁止のため、別織の正絹を用いたが、巻軸は原本と同様の京漆塗とした如きはその一例である。複製本は本学名誉教授藤井乙男博士の解説を伴う原文翻字の別冊と共に、優美な桐箱に収められている。解説には館長本庄栄次郎博士が影印複製の趣旨を序し、総長羽田亨博士が題簽を揮毫している。300部を限定刊行し、250部を有志者に頒布した。

### 京都帝国大学和漢図書分類目録 第3工学 昭和14年3月現在 昭和16年3月刊

本目録は昭和14年刊行の「京都帝国大学和漢図書目録 第2冊理学」に続く第3冊工学である。昭和15年4月より収録書の選定、原稿記入等を開始し、7月より分類に着手、9月編纂事務を終り印刷を始めた。編纂開始より約1カ年後の昭和16年3月に刊行。前目録の書名「京都帝国大学附属図書館和漢

書目録」を「京都帝国大学和漢図書分類目録」と改題した。

収録図書は昭和14年3月末現在の工学に属するもので、本文343頁、巻末に90頁の書名索引を附し検索に便している。さらに同年9月本目録に対して著者名検索の便宜を計り、別冊「著者索引」を刊行した。別冊「著者索引」は著者とその著書名のみを記載し、著者より本目録を索引する文字通りの著者索引であって、著者目録ではない。しかし和漢書目録に対する著者索引の刊行は、本館としては最初の画期的な試みであった。この企画は図書検索者の利用が書名索引より著者索引に次第に移行する新しい時代の要求に答えんとしたものである。

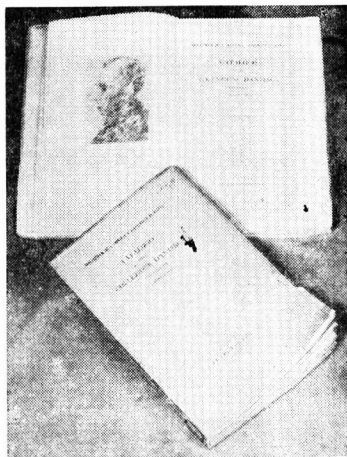
なお編纂は竹林熊彦司書官の監修の下に 小川寿一，三田全信，赤松恭一郎，村上千秋，今井俊子が担当した。

#### 尊 攘 遺 芳 昭和16年5月刊

本書は別冊「尊攘堂誌」と共に紀元2600年記念事業の一つとし編纂されたもので、先賢諸士の遺墨遺品その他約90点の図版を収載している。体裁はだいたい昭和3年11月刊行の「尊攘堂遺墨集」によっているが、同書収載の図版「吉田松陰画像」の外は本書に再録することを避け、本書収載の図版はすべて新しく選定したものである。題簽は本学総長羽田亨博士，編纂は本館嘱託山鹿誠之助，金子正道の兩人が担当した。

#### 旭江文庫目録 昭和16年9月刊 (Catalogo della Collezione Dante- sca donata da Giukici Oga)

武田製薬株式会社員大賀寿吉氏の旧蔵旭江文庫の目録で、新村出館長の監修の下に、黒田正利嘱託を編纂主任として本

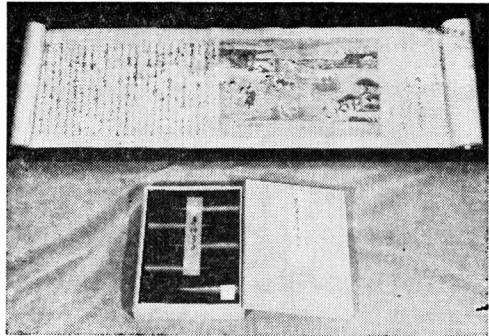


旭江文庫目録

目録の編成に着手した。谷口寛一郎、城戸善一、佐々木乾三、木寺清一各司書は協同して編成を分担し、同年九月印刷完了、同10月刊行された。なお本目録の出版については京都市伊協会会長田中博氏多額の出版費を受けた。ここに氏の厚志を追記して、感謝の意を表したい。

### 車 僧 草 子 昭和16年11月刊

本館内の影印頒布会は昭和16年11月本館所蔵の稀覯書「車僧草子」1帖を影印複製して、再び会員ならびに学界におくり好評を博した。本書の用紙は先の複製本と同じく、越前五箇荘産の別漉を使用し、玻璃版数度の彩色刷によって、原図の奈良絵をほうふつさせる等、原本の風趣を最大限に再現するようにつとめた。装幀等の造本においても、また納本箱等の意匠においても、京都の特殊工芸の粋を集めて製作した。



影印本車僧草子

添付の別冊解説は、本学名誉教授藤井乙男博士の執筆。解説は「校註車僧草子」と、「校註異本車僧草子」2篇よりなっている。校註の2書はいずれも原本の草書を普通文字に翻字して原文の読解に使っている。合綴書の一つ「校註異本車僧草子」は、本学文学部国文学研究室蔵本を底本とし、さらに御巫清白氏所蔵本をもって対校し、さらに註釈を加えたものである。なお本書は200部の限定出版である。

### 京都帝国大学和漢図書分類目録 第4医学、附富士川本目録 昭和12年8月現在 昭和17年7月刊

本目録は前3部門に引きつづいて刊行された第4冊医学部門で、昭和13年10月編纂に着手し、同17年7月、5カ年の長年月を費して、ようやく完成したものである。本文355頁、書名、著者両索引ともで計494頁、昭和13年

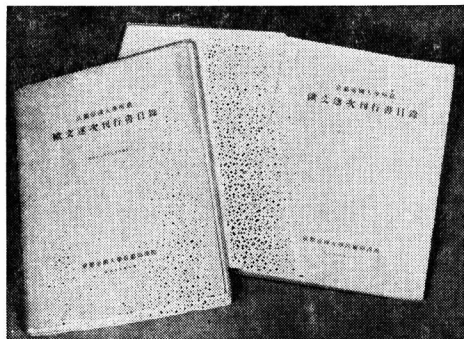
3月現在の目録である。

本目録の完成がこのように長期にわたったのは、富士川文庫約9,017冊の収録編成に、多大の時間と労力を消費したためである。富士川文庫は日本医学史研究の最も貴重な根本資料として、学内外の学者、篤志研究家に重視され、その印刷目録の出現は早くから待望されていたものである。そのため本目録中より富士川文庫を抽出して、別本の目録1冊を編成した。すなわち「京都帝国大学  
附属図書館富士川本目録」である。本目録ならびに「富士川本目録」の編纂は、竹林熊彦司書官の監修の下に、柴田清、小川寿一両司書が主として編纂に当り、館員赤松恭一郎、今井俊子等が協力した。なお昭和16年2月より水梨弥久、鈴鹿蔵両司書および館員青山清が、第4冊医学に引続き第5冊として農学部門の編纂に着手し、同19年1月収録図書原稿記入と、その項目分類を終了し、印刷に着手する一切の準備を完了した。しかし時あたかも終戦前の最悪の時期に当り、その刊行を見るに至らず、編纂者の3カ年の労苦も水泡に帰した。しかし原稿は分類別に整理されて保存されている。

#### 京都帝国大学所蔵欧文逐次刊行書目録 昭和18年3月刊

本目録は昭和5年以来、谷口寛一郎司書を中心に、佐々木乾三、木寺清一両司書が協力して鋭意編成を継続し、昭和17年3月ようやくAよりKまで前半を終り、第1分冊として公刊した。すなわち「京都帝国大学欧文逐次刊行書目録 第1冊A—K」である。

第1冊公刊後ただちに、それ以下のLの部より編成を開始し1月LよりZに至る後半の部を完成した。後半部の完成とともに先に公刊したA—Kの部を合綴して全1冊として刊行した。すなわち「京都帝国大学所蔵欧



京都帝国大学所蔵欧文逐次刊行書目録

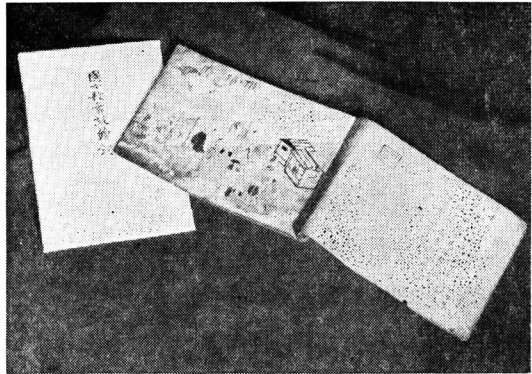
『文逐次刊行書目録』 昭和18年3月刊 である。

収録図書は雑誌、新聞、報告書、議事録、年鑑等の欧文逐次刊行書で、昭和17年1月までのものである。収録冊数は13,000種350,000冊、232頁の目録である。なお種別は人文5,500種、自然科学7,500種である。

#### 国女歌舞妓絵詞 昭和23年3月刊

奈良絵本「国女歌舞妓絵詞」は本館の最も誇りとする貴観書の一つで、大正3年本学の所蔵に帰した。同年本学教授藤井乙男博士によって考証され、その価値を坪内逍遙博士に称讃され、諸学者の注目するところとなり、「大日本史料 第12篇21」に収載された。元来奈良絵本の絵はおおむね粗雑であるが、これは頗る巧みな筆致である。絵も古雅で、詞書の書体も優美である。

歌舞妓図として伝存するものの内、梅原龍三郎氏蔵（中村福助氏旧蔵）のものとならんで、歌舞伎発達史の研究資料としても、また日本美術史の参考資料としても、極めて貴重なものである。昭和26年



国女歌舞妓絵詞

3月、本書を影印複製し、和英両文の別冊1冊を添えて公刊した。複製に当っては、成立年代を慶元年間と推定せられる原本の古雅と風趣の復元に最も意を用い、印刷技術の粋を集めた。ただ別冊解説の口絵に原色版1葉を付した外は、本文の挿絵にまで原色刷を用いることのできなかつたことは甚だ遺憾である。

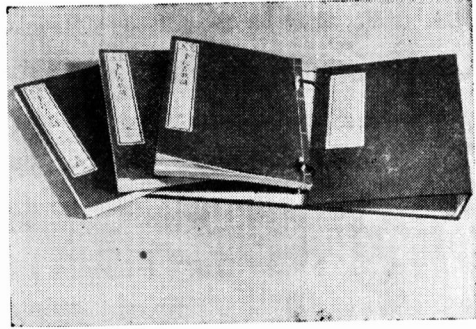
和文の解説は水梨弥久、鈴鹿蔵両事務官が担当し、英文解説は小倉親雄事務長が執筆した。この種の出版物に従来考慮されることの少なかつた英文に

よる解説を併記したことは、学術資料の国際的利用を考慮した結果である。

**官板李長吉歌詩** 昭和27年8月刊

大正7年昌平覺官板の板木を摺刷して「昌平叢書」63種を30部限定刊行したが、昭和28年8月「李長吉歌詩」1種3巻を本叢書中より選んで重印した。

本書は宋朝呉正子の箋注と、劉辰翁の評点を附した唐朝の詩人李賀（791～817）、字は長吉の詩集で、200首以上の伝存の詩が収録されている。李賀の詩は西歐の象徴詩人の詩としばしば比較せられ、ま



李長吉歌詩

たその詩風の独自の美しさのために、中国におけると同様に日本においても広く愛唱されている。

なお泉井久之助館長が和英両文をって、本書の成立と重印の由来を序し、本文に、「昌平叢書」63種の目録を収載した小冊子を附録として添えた。

**医学関係図書展観目録** 昭和30年4月刊

昭和30年4月1日より5日まで本学で举行された第14回日本医学会総会に際し、同会と共催した「医学関係図書展示会」に出陳の展示図書目録である。

出陳図書はわが国医学の発展に寄与した平安朝より明治維新前に至る和漢の名著で、主として富士川文庫中より選出した珍籍逸書である。なお本学には新宮、山脇、江馬、高橋諸氏寄贈のオランダ書100余点の収集があるが、その内の江馬蘭齋（1747～1838）、および新宮涼庭（1787～1854）の手沢本の1部をも展観し、成立年代順に排置した。本目録も展示図書の序列に従って収録し簡明な解説を附している。本目録の編纂と解説は、日本医学会の委嘱を受けて鈴鹿藏和漢書目録掛長が担当した。

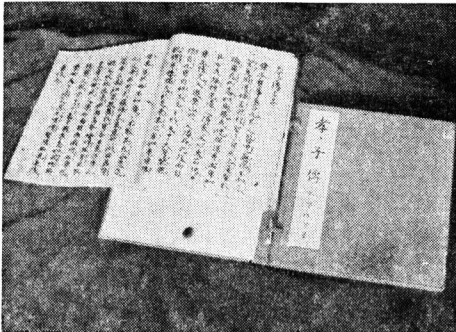
## 京都大学附属図書館覧要覧 昭和33年4月刊

戦中戦後の空白と虚脱をようやく克服した本館は施設の増強，事業の拡大等に伴い，本館規程類の改正，増補等をしばしば行ってきた。

本館はこの体質改善後の新しい現状を，学内外の利用者に広報することの必要に迫られ，昭和33年4月「京都大学附属図書館覧要覧」を刊行した。本書は昭和15年に刊行した「京都帝国大学附属図書館案内 学生用」とは少しく内容体裁を異にし，単なる学生に対する図書館利用の案内書ではなく，むしろその題名が示すが如く，昭和32年末の本館現勢の集約的報告というべきものである。本書は岩塚敏生事務長の企画編纂によるもので，本文39頁の小冊子に過ぎないが，本館運営の諸規程およびその施行細則等を収録し，本館利用者の指針ともなりうるよう配慮されている。

## 孝子伝 昭和34年12月刊

昭和34年12月11日は，本館が明治32年（1899）に創立されてより満60周年に相当する。この日を記念し，記念事業の一つとして，清家文庫中の「孝子伝」2巻1冊を選んで200部を影印複製し，内外の学界に送った。



孝子伝

「孝子伝」は皇室の明経師家清原氏の後裔舟橋家伝世の古鈔本で，天正8年（1580）清原宣賢の孫枝賢の書写にかかり，清原家家学の傾向を窺うことのできる貴重な書蹟である。

本書の原典は梁陳隋の六朝の間に成立した雑伝の類で，中国本土においては早くより逸して伝らない稀観書である。わが国においてのみ書写されて遺存し，昭和27年重要文化財に指定された。わが国に伝鈔以来，長年月の経過中に文字の誤り，和訓の混



乱等が生じ、意味の不明、難読等がしばしば見出される。このため解説ならびに釈文の別本1冊を添付している。なお田中周友館長は別本の序文で本書刊行の由来を述べ、本学文学部吉川幸次郎教授は解説を執筆し、また文学部一海知義助手は釈文を担当した。

## 第2節 展覧会・講演会

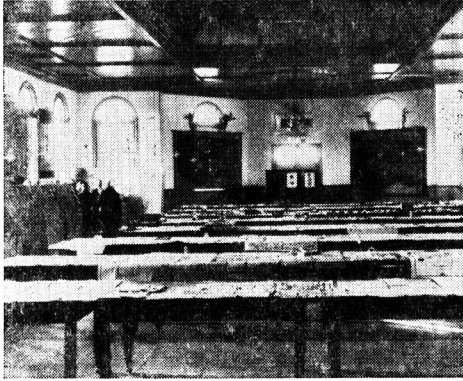
本館では開館いらい、しばしば各種展覧会および講演会を開催して、たんに学内者のみならず、ひろく好学篤志の者に公開している。それを各年次順に挙ぐれば、次の如くである。

### 本館創立1周年記念展覧会

明治33年12月10日・11日の両日閲覧室において開催。本館所蔵本および近衛家寄託図書のうち、(一)漢籍門は、(1)本邦古写本 (2)本邦古板本 (3)本邦古活字本 (4)支那古板本及大部書 (5)朝鮮古板及古活字本 (6)近衛家瀕手写本及校刊本とし、(二)国書門は、(7)古写本及写本希覯のもの (8)古活字本 (9)本邦板本(珍板及佳本) (10)古板絵入教訓随筆類 (11)古板草紙類とし、(三)附存門は、(1)風俗珍本類 (2)絵本類 (3)俳諧、狂歌類 (4)和蘭及外国に関する図書とし、計210点を陳列し、府下ならびに近府県所在の学校長、その他の人に案内状および入場券を発送して、広く公衆との接触を図った。

### 本館創立2周年記念展覧会

明治34年12月8日より10日まで閲覧室において開催。京都地誌に関する珍襲の図書を広く収集して、第一門地図は、(1)内裏図 (2)京都図(イ。既刊の図、ロ。未刊の図) (3)洛外地図、第二門書籍は、(4)名勝志図絵部



創立2周年記念展覧会 旧閲覧室

(5)年中行事細見部 (6)町鑑等  
(7)人物志, 明鑑等とし, 第三  
門附存は (8)大火部 (9)行  
列部 (10)河川部 (11)遊廓部  
(12)法制部 (13)考証随筆部 (14)  
詞藻部として, 精密に分類し,  
解説を添えて陳列した。

**尊攘堂竣工, 本館創立  
3周年記念展覧会**

明治36年4月12, 13日の兩  
日閲覧室において開催。尊攘堂の第1回祭典を機として, 尊攘堂附属の図書  
物品の類, および本館所蔵の維新史料等を陳列した。

**本館創立5周年記念展覧会**

明治37年12月11日, 12日の兩日閲覧室において開催。本館所蔵ならびに寄託  
の近衛本および百々本中の貴重図書を, 宋元版, 明清版, 韓本, 五山版, 徳  
川初期刊本, 同中期刊本, 古抄本, 影抄影刻本, 名家稿本および手沢本, 洋  
書古版本等に分類し, 出版年次を追って陳列した。

**西洋図書展覧会**

明治39年4月1日閲覧室において開催。西洋出版の図書を時代に従って排  
列し, 非常に盛況であった。

**本館創立10周年記念医書展覧会**

明治42年12月10日より12日まで閲覧室において開催。本邦医学に関する図  
書を陳列し, 本館図書寄贈者, 近府県学校長, 医師, その他知名の士に案内  
状および入場券を発送して, 広く篤志者の展覧に供した。

また11日午後2時より, 富士川游氏が「陳列医書について」と題する講演  
をした。

**大典奉祝陳列展覧会**

大正4年11月12、13日の両日文科大学陳列館、尊攘堂において、大典を奉祝して文科大学と共催し、歴史、地理、土俗、考古、言語等の諸学科にわたる典籍、文書、ならびに物品を陳列した。文科大学陳列館の第1室には、主として皇室に関するもの、および外国交通・外国語学等に関するもの、第2室、第3室には国史に関するもの、第4室に印度に関するもの、第5室に日本新領土、および欧洲戦場地図に関するもの、第6室に東洋史に関するもの、第7室に西洋史に関するものを展示し、別に尊攘堂に特別室を設け、日本考古学に関するものを陳列した。

#### 京都帝国大学附属図書館展覧会

大正7年4月20日新事務室各室において、事務室新築落成を機として開催し、図書館学の大綱を平易な絵巻の様式に展開し、一般に図書館事務の内容を知らせ、書籍利用の参考知識を広めることにつとめた。当日の展覧品目を挙げれば、

#### 京都帝国大学附属図書館図書整理事務に関する様式類

- (1) 逐次刊行物受入手続例
- (2) 和漢書カード目録記入法並に分類例
- (3) 洋書カード目録記入法並に分類例
- (4) 京都帝国大学附属図書館使用カード種類
- (5) 増加図書年報編纂例
- (6) 京都帝国大学洋書目録編纂例

#### 図書館に関する参考図書

和漢書整理参考古書目

英仏独伊出版書籍目録

米国議院図書館印刷カード及整理例

カーネギー・インスティテューション寄贈図書

故京都帝国大学総長木下博士記念図書

京都帝国大学附属図書館所蔵及寄託稀覯図書

久原氏寄託稀覯図書

## 図表類

- (1) 京都帝国大学附属図書館事務経路図表
- (2) 自明治32年10月(図書館創立当時)至大正6年12月図書増加統計
- (3) 教室貸付図書統計
- (4) 個人貸付図書統計
- (5) 増加図書と教室貸付図書との統計対照
- (6) 洋書紙版サイズ種類表
- (7) 寄託図書一覧表

### 日本書紀編纂1200年記念展覧会

大正8年5月10日尚賢館において開催。日本書紀に関する各種図書を陳列して比較研究に供した。また同時に新徳館において、本学教官数名が研究成果の講演をした。

### 日英関係史料展覧会

大正11年5月12、13日の両日尊攘堂において開催。去る4月29日英国皇太子殿下御来学に際し、主として日英関係を示すべき史的参考資料を収集したが、その中より数点を台覧に供したのみであるので、これら収集された大部分、すなわち主として本学所蔵のもの、および京都市内を始め東京や長崎からも借用することのできたものを、明治時代のもは20年代以前に限ることにして、なるべく初期のものに力を注いで陳列し、日英関係の歴史を回顧し、あわせて明治文化史および学芸史の一面を知るの便に供した。両日とも千名内外の熱心な観覧者を得た。

### 大典奉祝勅版官版及藩版図書展覧会

昭和3年12月3日より7日まで、閲覧室において開催。本館所蔵品および近衛文麿氏蔵、谷村一太郎氏蔵、久原房之助氏蔵、京都府立図書館蔵の図書を展覧したが、折から日本図書館協会主催の第22回全国図書館大会が本学で開催中であつたので、会員の参観者で大変にぎやかであつた。

### 本学創立記念図書展覧会

昭和5年5月18日尊攘堂において開催。

### 近衛家寄託書展覧会

昭和12年11月21日より23日まで、文学部支那学会と共催。近衛家の旧蔵書で本学に寄託されている、漢籍および貴重な和書を展観した。

### 戦争に関する新聞展

昭和17年6月18日第二閲覧室において、本学創立第45周年記念日を祝して開催。明治維新以後より最近に至る戦争に関する新聞を陳列し、平素見る機会のない維新期の諸日誌から明治初年の諸新聞、あるいは西南、日清、北清、日露戦役における勝利の戦報など、さらに第1次世界戦争、満洲、支那兩事変、大東亜戦争緒戦までの新聞、雑誌、画報、写真などを選んで展観した。

### 西園寺公関係図書展

昭和19年6月18日清風荘において開催。本館閲覧室に久しく掲げられていた「静修館」の扁額を初め、本学法学部、文学部、経済学部など所蔵の西園寺公ゆかりの図書10数点と、男爵住友吉左衛門氏、住友保丸氏、大平賢作氏、原邦造氏、立命館など所蔵の書翰、書幅、愛用品など35点余を展観した。

### 本学創立50周年記念附属図書館所蔵貴重書展

昭和22年10月26日、27日の両日図書陳列館（尊攘堂）において開催。貴重和書の部として百萬塔、万葉集（尼崎本）、伊勢物語（嵯峨本）など10数点と、明治初中期の英語手引書、辞書の部として横文字早学（慶応2年錦光堂版）など20余点、貴重洋書の部として耶蘇会関係資料、日本関係資料、18世紀和蘭自然科学書、その他ダンテ「神曲」各種版など約30点を陳列した。

### 本館所蔵貴重書展

昭和23年10月30日、31日の両日、館長室、米国教育文庫室において、読書週間（第2回）に協賛して開催。（一）奈良朝の写経と印刷、（二）平安末期の和歌と日記、（三）鎌倉、室町時代の経学と説話、小説（四）江戸時代の諸本、に区分して、光明皇后願経、兵範記、春秋左伝抄（宣賢筆）、伊曾保物語な

ど、20数点を展観した。

### 新着米国図書展示会

昭和25年6月29日より7月1日まで陳列室において開催。極東貿易株式会社の出品で、戦後久しく入手難であった米国図書、人文科学関係750点と、自然科学関係(医書を除く)450点を展示し、出品目録を参観者に配布した。また29、1日の両日は午後1時から解説講演を行った。

### イスパニヤ文庫展

昭和26年3月28日イスパニヤ文庫室において開催。昨年スペイン国政府ならびに同国最高学術会議の厚意によって寄贈された學術書でもって、今回日西両国の親善ならびに文化交流のため「イスパニヤ文庫」が本館に開設されることになったので、それを記念して駐日スペイン国カスティヨ公使夫妻およびアロンソー一等書記官夫妻を招待して展示した。

### 清家(舟橋家)旧蔵本展

昭和26年12月8日陳列室において文学部支那学会と共催。今回舟橋清賢氏より蔵書を本館に寄贈されたのを機に、経学の研究資料として本邦屈指といわれる同家の記録および家学書を陳列して、清原家(舟橋家)家学の紹介に資した。また文学部宮崎市定教授、吉川幸次郎教授、法学部猪熊兼繁教授の記念講演会を開催した。

### 佐藤家寄贈和算図書展

昭和27年6月21日陳列室において開催。(明)程大位の原著で湯浅得之が訓点をつけて翻刻した算法統宗と、これをもととした吉田光由の著明な算術書塵劫記等、本館所蔵本10余点と、今回寄贈された佐藤則義氏旧蔵本の和算稀観書約40点を展観。あわせて米国プラスチック・レリーフ・マップの一般公開をした。

なお講演室において、理学部小堀憲教授は「和算について」、人文科学研

研究所内清教授は「中国数学の和算に及ぼせる影響」、理学部榎山次郎教授は「現代日本地質学とプラスチック・レリーフ・マップについて」と題して、それぞれ記念講演を行った。

### 近世文学展

昭和28年10月31日と11月1日の両日陳列室において、読書週間（第7回）に協賛して開催し、近世江戸文学を代表する元禄歌舞伎狂言本および連歌、奈良絵本等40数点と、天理図書館が秘蔵する秋成自筆の春雨物語、秋成文集等20余点を展観した。なお今回新しく備え着けた陳列ガラスケースに収めたので、参観者の好評を得た。

### 西洋古文献展

昭和29年4月19日より5月8日まで陳列室において開催。14世紀の特許状を初め、15世紀から18世紀までの公文書、証文、遺言状、公正証書等、珍しい羊皮紙文書を中心とする西洋古文献17点を展観したが、新学期で新入生が続々つめかけた。

### 本学創立第57周年記念資料展

昭和29年6月18日より25日まで、陳列室において開催。本学の創立ならびに今日に至る発展の姿を偲ぶ写真、記録、書簡、出版物、その他を本学名誉教授をはじめ、学内外から出品を得て展観したが、非常な好評を博した。

### 朝鮮古文献展

昭和29年10月9日より15日まで、陳列室において文学部朝鮮学会と共催し、朝鮮財政史研究の貴重な資料である河合本を主として展観した。なお9日午後1時より楽友会館において、文学部梅原末治教授の「朝鮮遺跡に拠る三国鼎立時代の韓半島」と題する公開講演と、京都アメリカ文化センターのヘンダーソン主任の「朝鮮の風物」と題するスライドを映写した。また10日午前9時より午後4時まで講演室において、朝鮮に関する研究発表会を開催した。

### 医学関係稀観図書展

昭和30年3月29日より4月10日まで陳列室において開催。4月1日から始まった第14回日本医学会総会を機会に本館所蔵の医学関係稀観書（主として富士川本等）を陳列し、和書は葉経太素（和氣広世著2巻1冊写）以下49点、洋書は江馬蘭齋（1747—1838）、新宮涼庭（1787—1854）の手沢本の1部と同総会のため寄贈された知名人の書画、工芸品類をあわせて展観した。

### シラー歿後150周年記念展

昭和30年6月9日より11日まで陳列室において、文学部ドイツ文学研究室と共催し、本館および文学部所蔵のシラー関係の図書を展観した。なお9日に文学部大山定一教授の講演とその伝記映画（16耗）を講演室で映写した。

### 図書館学関係及び稀観図書展

昭和30年10月28日より11月12日まで陳列室において、読書週間（第9回）に協賛して日本図書館学会と共催し、本館が所蔵する図書館学関係図書と、古写本、古刊本、絵巻物、奈良絵本、その他小説本等種々の稀観書を陳列した。

### 図書及び印刷の変遷史展

昭和31年5月21日より26日まで陳列室において開催。図書の種々の形態を示す資料および、世界最古の印刷と称せられる、法隆寺百万塔陀羅尼経を始めとして、支那、朝鮮、日本の版本、木活、金属活字本等、印刷の変遷を示す資料を時代順に陳列した。

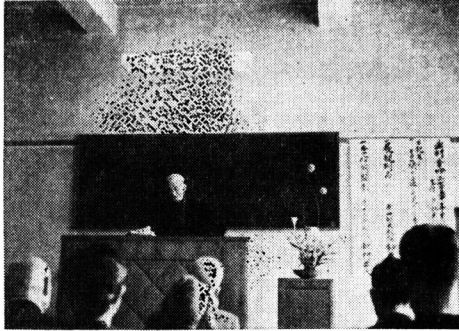
### ハイネ百年祭記念展

昭和31年6月9日陳列室において、ドイツ文学会と共催し、ハイネの追憶と思想の普及のため、講演会を行った。なお展観場において、ハイネ歌曲のレコード演奏（解説付）を催した。

### 北村季吟250年記念展



昭和31年6月16日より20日まで陳列室において開催し、京都新玉津島神社



季吟記念展で講演する新村出博士

より後陽成天皇宸筆「玉津島明神」神号を始め、大津石山寺、天理図書館、新村出氏、鈴鹿三七氏その他より出品の自筆の書簡および日記等、50数点を展観した。

また講演室においては、下記の講演会が開催された。

日記及び書簡を通じて見たる季吟	文学部教授	野間光辰氏
展観品について	南山短大教授	鈴鹿三七氏
季吟翁顕彰	京大名誉教授	新村出氏

### 本館所蔵重要文化財図書展

昭和31年9月17日より22日まで陳列室において開催。重要文化財に指定されている、(1)「清原家の家学書」34集、紙本124冊、(2)「兵範記」平信範自筆本19巻、(3)「万葉集卷16」尼崎本、(4)「古今集注」20巻の4種を陳列した。

### 私家限定版袖珍本展

昭和31年10月29日より11月2日まで陳列室において開催し、伏見若林正治氏多年の苦心収集にかかる蔵書を始め、文学部宮崎市定教授、理学部松井佳一講師、人文研倉田淳之助講師、文学部卒業生中野莊次氏等所蔵の貴重な私家版、限定版、および各種袖珍本約200点を展観した。

### イタリア図書展

昭和32年2月18日より27日まで、陳列室ならびに講演室において開催。イタリア政府の厚意で、この図書展開催のため日本に送られて来た、イタリア

における各学問領域の最新の成果を示す総数約3,000冊の図書を、(1)イタリアにおける書籍の歴史 (2)ダンテ関係 (3)イタリアで出版された東洋に関する書籍 (4)文学 (5)美術 (6)哲学・歴史・宗教 (7)法律 (8)経済 (9)博言学 (10)科学 (11)イタリア書籍病理学研究所の11の部門に分けて陳列した。なお18日午後11時より、イタリア大使代理ドウランテ情報官を迎えて開展式を行った。また23日午後1時より会議室において次の講演会を開催した。

イタリア文化と図書	京大教授 野上素一氏
イタリア書物文化の背景	甲南大教授 寿岳文章氏

#### 谷村文庫展

昭和32年10月12日より26日まで陳列室において開催。故秋邨谷村一太郎氏が収集した国文学書、古文書等、数千部に達する貴重な資料から、氏の業績を偲びかつまた本文庫の価値を広く世に問うため、古写経、古刊本、連歌(猪苗代本)に大別して70点余を展観した。

なお、26日午後1時より講演室において、下記の記念講演会を開催した。

二条良基の連歌について	京都女子大教授 岡見正雄氏
秋邨翁と古書探求	龍大名誉教授 禿氏祐祥氏
挨拶	京大名誉教授 新村出氏
列品解説	ノートルダム女子大講師 鈴鹿三七氏

#### 法隆寺資料展

昭和32年11月14日より20日まで陳列室、講演室、会議室において開催。法隆寺に関する文献および便利堂製原寸大壁画掛軸12面全部と、模型を作製し、実際通り展示し、あわせて火災のため損傷した部分写真をも添えた。また文学部陳列館が所蔵する同寺の模型を陳列し、今までにない大がかりな展覧会を行った。

#### イタリア図書展

昭和33年7月4日より8日まで陳列室において開催。駐日イタリア大使館

の厚意で、昨年2月に引き続き今回は、イタリア国立印刷局の出版物を中心とした図書を展観した。

また下記の講演会を4日午後1時半より、会議室において開催した。



イタリアにおける出版

イタリア図書展 陳列室にて

とその歴史

京大教授 野上素一氏

フィレンツェ回顧

トーマス学院教授

ヴェンチヴェニ博士

### 維新資料展

昭和33年10月15日より18日まで陳列室において開催。戦後ながらく公開されなかった、本館所蔵尊攘堂の遺品・遺墨の一部を展観したが、維新史の研究がますます盛んな今日において、同資料の展示は大変な人気を呼んだ。

### 奈良絵本展

昭和33年10月27日より11月8日まで陳列室において、読書週間（第12回）に協賛して開催。本館および文学部所蔵の奈良絵本を中心とし、さらに清水泰氏、中野莊次氏、若林正治氏襲蔵にかかるものを合せ約50点を展観したが、このように多数、系統的に展示されたことはほとんど例がなく美術史・国文学史の資料として、これまた話題を呼んだ。

なお11月8日午後1時半より会議室において、つぎの講演会を開催した。

奈良絵本について

立命大講師

清水

泰氏

### 重要文化財図書展

昭和34年4月30日より5月2日まで陳列室において開催。本館所蔵の重要文化財「兵範記」の修理完成を機として、同自筆本、古写本、附属写本を主とし、清原家家学書、万葉集（尼崎本）、古今集注など総数37点を展

観した。

なお5月2日午後1時より講演室において、次の講演会を開催した。

日本の書物文化について 文学部教授 赤松俊秀氏

#### 京都祭礼関係図書展

昭和34年5月13日より15日まで陳列室において開催し、京都の年中行事の祇園祭、葵祭、牛祭等主な祭礼を記した文献、図絵、写真等を展観した。14日午後3時より講演室において、本学法学部教授猪熊兼繁氏が「葵祭その他」と題して講演を行った。

#### 徳川本源氏物語絵巻複製展

昭和34年9月17日より19日まで陳列室において開催。東京芸術大学より徳川黎明会所蔵の「源氏物語絵巻」を底本として、川面義雄画伯が16年の年月を費し複製された木版摺2巻（上、下巻で中巻は昭和25年やはり同氏により徳川黎明会から刊行された）が寄贈されたのを機会にこれを展観した。

なお19日午後1時より、講演室において「源氏物語絵巻について」と題して関西学院教授源豊宗氏の講演と、徳川美術館所蔵の源氏物語カラスライド（解説付）を映写したが、本館創立以来未曾有の盛況を示し、数回映写を繰返した。

#### 貴重史料展

昭和34年11月2日より7日まで、陳列室において読書週間（第13回）に協賛して、文学部読史会と共催し、地藏院文書のほか、中世ならびに近世史料など、本館が所蔵する貴重書42点を陳列した。また同展観目録を刊行した。

なお5日午後1時より、講演室においてつぎの講演会を開催した。

明治中期における国粹主義者の著述と思想 立命大助教授 岩井忠熊氏  
近世公卿貴族の生活 大阪女子大教授 村山修一氏

#### 本館創立60周年記念回顧展

昭和34年12月9日より12日まで陳列室において開催し、本館創立以来の刊

行図書をはじめとし、寄贈申込書、珍しい各種の古いタイプライター、或いは写真集、尊攘堂芳名録、主な寄贈図書など本館 60年の姿を偲ぶ資料 160 点余を展覧したが、記念式典（12月11日挙行）に参列した旧職員などが往古を懐しみながら眺める姿があちこちに見られた。

### 第3節 講 習 会

本館にて開催された図書館講習会は、いずれも文部省が本学に委嘱して実施したもので、本学の教官および本館職員が多数出講した。以下列記すれば

#### 文部省主催図書館講習会

大正14年10月5日より14日まで、尊攘堂を会場として開催し、現に図書館業務に従事する者約40名を募集詮衡し、講習員には出席日数を考査し、修了証書を授与した。その科目および講師は

正 科	(時間)			
図書の分類及排列法	6	大阪府立図書館長	今井貫一	
図書の選択法	2	京都府立図書館長	北島貞顕	
基本図書及参考図書	4	京都帝国大学図書館長	新村出	
読書の指導法	2	京都府立図書館長	北島貞顕	
和漢書目録記入法及実習	8	京都帝国大学司書官	山鹿誠之助	
洋書目録記入法及実習	8	京都帝国大学司書	笹岡民次郎	
実習	3	京都府立図書館に於ける指導	京都府立図書館司書	加藤憲一
		大阪府立図書館に於ける指導	大阪府立図書館	中尾謙吉
副 科	(時間)			
社会教育機関としての図書館	2	京都帝国大学教授	藤井健治郎	
和漢書の装幀	2	〃	〃	吉沢義則
支那の目録学に就て	2	〃	〃	狩野直喜
郷土史料と図書館	2	〃	〃	西田直二郎
仏教書籍概説	2	京都帝国大学司書	藤堂祐範	

### 文部省主催図書館学講習会

昭和7年11月1日より10日まで、10日間、尊攘堂を会場として開催し、地方長官、学校長推薦による公共図書館員、学校図書館員約100名を募集し、前回同様講習員には出席日数を考査し、修了証書を授与した。その科目および講師は

(時間)			
社会教育と図書館	2	文部省成人教育課長	松尾長造
図書館通論	3	帝国図書館長	松本喜一
図書分類法	6	大阪府立図書館長	今井貫一
図書閲覧指導法	3	京都府立図書館長	北嶋貞顕
特殊図書の蒐集整理	2	京都帝国大学図書館長	新村出
和漢書目録法	6	〃 司書官	山鹿誠之助
洋書目録法	6	〃 司書	谷口寛一郎
仏教書籍概説	2	〃 〃	藤堂祐範
目録記入法実習	6	〃 〃	谷口寛一郎
		〃 嘱託	的屋勝
経済史料に就て	2	京都帝国大学 教授	本庄栄治郎
郷土研究に就て	2	〃 〃	石橋五郎
支那文献学	2	〃 〃	小島祐馬
農村と図書館	2	〃 〃	橋本伝左衛門

### 昭和26年度図書館専門職員養成京都大学講習

昭和26年7月11日より9月10日まで法経第4教室を会場として開催。この講習会は図書館法第6条第1項「司書及司書補の講習は、教育学部又は学芸学部を有する大学が文部大臣の委嘱を受けて行う」によって行われたもので、本年度は東北、東京、慶応、名古屋、京都、九州の6大学において実施された。図書館法施行の昭和25年7月30日現在在職中の図書館職員で、司書および司書補の暫定資格を附与されたものを主体とし、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫、岡山、広島、鳥取、香川、徳島、高知の2府10県を京都大学の担当区域として、163名が受講した。

なお本講習受講者の参考にとすため、本館所蔵図書の展覧を9月3・4

の両日、イスパニア文庫室、教官閲覧室において、第1日は、洋書、和漢書、写本を、第2日は、和漢書、装釘の標本を展示した。

その科目および講義は

	(単位)		(時間)
図書館通論	1		15
(アメリカ図書館事情)		泉井久之助	(2)
(ヨーロッパ図書館事情)		中村祐吉	(2)
(図書館の建築)		森田慶一	(2)
(一般)		小倉親雄	(9)
図書館実務	1	山下栄	15
図書選択法	1	竹林熊彦	15
図書目録法	2		45
(洋書について)		中西信太郎	(2)
(          )		伊吹武彦	(2)
(和書について)		遠藤嘉基	(2)
(漢籍について)		吉川幸次郎	(2)
(欧米の公文書について)		岩村忍	(2)
(古記録について)		猪熊兼繁	(2)
(洋書目録)		佐々木乾三	(10)
(図書館の建築)		森田慶一	(2)
(和書目録)		鈴木蔵	(5)
(洋書目録)		谷口寛一郎	(10)
(漢籍目録)		鈴木隆一	(5)
図書分類法	1	天野敬太郎	15
レファレンス・ワーク	1	木寺清一	15
図書運用法	1	南論造	15
図書館対外活動	1		15
(一般)		西藤寿太郎	(10)
(分館の活動)		西村精一	(2)
児童に対する図書館奉仕	1	仙田正雄	15
視聴覚資料	1	大佐三四五	15
学校教育と公共図書館	1	池田進	15
図書館史	1	富永牧太	15
社会教育	1	西元宗助	15
図書及印刷史	1	田中敬	15

図書目録法（西洋古典と図書館）  
 図書解題及び図書評論

泉井久之助 (3)

### 昭和27年度図書館専門職員養成京都大学講習

昭和27年7月5日より9月10日まで法経第4教室を会場として、前年度同様、図書館法第6条の規定に基づき開催。本年度は東北、東京、名古屋、京都、九州、新潟、信州、広島の前年度8大学において実施された。そして京都大学は受講区域を全国として133名が受講した。

その科目および講師は

[必修]	(単位)	(時間)
1 図書館通論	1	15
A アメリカ図書館事情		泉井久之助 (2)
B ヨーロッパ図書館事情		中村祐吉 (2)
C 各国に於ける図書館教育		大佐三四五 (2)
D (一般)		小倉親雄 (9)
2 図書館実務	1	山下栄 15
3 図書選択法	1	竹林熊彦 15
4 図書目録法	2	54
A 自然科学書について		田村松平 (3)
B 文学書について		桑原武夫 (3)
C 哲学書について		高田三郎 (3)
D 経済書について		堀江保蔵 (3)
E 歴史書について		原随園 (3)
F 書画の取扱について		赤松俊秀 (3)
G 古記録の整理について		猪熊兼繁 (3)
5 A 洋書目録法		天野敬太郎 (15)
B カード排列法		佐々木乾三 (3)
6 和書目録法		小野則秋 (15)
7 図書分類法	1	仙田正雄 15
8 レファレンス・ワーク	1	木寺清一 15
9 図書運用法	1	南論造 15
10 図書館対外活動	1	西藤寿太郎 15
11 児童に対する図書館奉仕	1	尾原淳夫 15
12 視聴覚資料	1	八木岩雄 15



〔選 択 甲〕			
13	学校教育と公共図書館	1	池 田 進 15
14	成人教育と図書館	1	西 村 精 一 15
15	図書館史	1	15
	A 東 洋		小 野 則 秋 (7)
	B 欧 米		竹 林 熊 彦 (8)
〔選 択 乙〕			
16	社会教育	1	西 元 宗 助 15
17	図書及び印刷史	1	15
	A 西 洋		寿 岳 文 章 (5)
	B 中 国		神 田 喜 一 郎 (5)
	C 日 本		野 間 光 辰 (5)
18	社 会 学	1	江 藤 則 義 15
19	図書解題及図書評論	1	上記(4) 7 講師 21
20	特別講義		宮 崎 市 定 3

### 昭和29年度図書館専門職員養成京都大学講習

昭和29年7月10日より8月31日まで法経第4教室を会場として、司書及び司書補の暫定有資格者を始め、将来図書館の司書となり得る人々を養成するため開催。本年度は秋田、東京、京都、静岡、愛知学院、三重、山口、愛媛、鹿児島 の 9 大学において実施された。そして京都大学は今回も受講区域を全国として162名が受講した。

その科目および講師は

1 必修科目 (11単位)	(単位)	(時間)
図書館通論	1	15
		小 倉 親 雄 (12)
		西 村 精 一 (3)
図書館実務	1	15
図書選択法	1	15
図書目録法	2	30
総論・洋書		天 野 敬 太 郎 (18)
和 書		小 野 則 秋 (12)
図書分類法	1	仙 田 正 雄 15
レファレンス・ワーク	1	志 智 嘉 九 郎 15

図書運用法	1	南 論 造	15
図書館対外活動	1	西 藤 寿 太 郎	15
児童に対する図書館奉仕	1	尾 原 淳 夫	15
視聴覚資料	1	大 塚 鑑	15
2 選択科目（4単位）			
特殊資料	1	山 下 栄	15
図書館史	1		15
日 本		竹 林 熊 彦	(5)
西 洋		中 村 祐 吉	(4)
ア メ リ カ		大 佐 三 四 五	(6)
社会教育	1	重 松 俊 明	15
図書及び印刷史	1		15
日 本		野 間 光 辰	(6)
中 国		小 川 環 樹	(5)
西 洋		富 永 牧 太	(4)

以上昭和26年、27年、29年の3回にわたり本学を会場として開催された講習は、いずれも図書館専門職員養成京都大学講習運営委員会が運営し、本学の責任において実施し、本学の認定によって、文部省がその資格を附与する権威ある講習であって、その受講者の審査にあたっては、各単位科目毎の出席率（%以上の出席を要す）、および各単位科目ごとの考査（100点満点60点以上を要す）を論文、報告、試験のいずれかでを行い、合格者には単位修得認定書を授与した。

## 第4節 京都図書館学校

京都図書館学校は、昭和22年（1947）京都大学創立50周年記念事業の一つとして、学校と社会教育の併立、すなわち働きつつ学び、学びつつ働くという理想の下に、京都大学の指導により、実務に従事する者の教育、ならびに再教育機関として教養の向上に資する施設を設けるという趣旨のもとに、有

志の寄附により設立された財団法人京都学芸協会が、京都経理学校と共に経営した各種学校であった。京都学芸協会の設立当時の理事は、京大総長 鳥養利三郎、京大文学部長 本田義英、宝酒造会長 大宮庫吉、京大事務局長 本田弘人、京大庶務課長 内藤敏夫、京大会計課長 横田実、京大工学部事務局長 武間源一郎、京大会計課監査掛長 寺井信 であった。

京都図書館学校は昭和23年3月22日京都府知事に申請し、3月9日認可された。本校は各種図書館の要員を養成することを目的として、京大附属図書館長原随園が校長となり、講師36名（常任23名、臨時12名）事務員4名で、24年3月まで1カ年間（授業日数158日、授業時数665時間）工学部（前期）と本館陳列室（後期）を教室として開設され、講義は午後5時より9時まで行われた。在籍者42名、卒業者37名（男18名、女19名）を数えたが、昭和24年度以降は生徒募集を行わず休校し、昭和26年に廃校の認可を受けて、京都府総務部文教課に引継がれた。なお本校卒業者に対して、文部省より図書館法施行規則により、図書館実務、図書目録法、図書分類法、図書館史の4単位が認められた。

### 学校図書館講習会

本校が昭和23年8月23日から28日まで、本館ならびに京都府・京都市の後援を得て、本館陳列室において主催した学校図書館講習会は、本校の特別講義として、毎日午前8時から午後4時まで、新制高等学校、中学校、小学校にそれぞれ設置されるべき学校図書館の運営を担当する職員に対し、図書館学教育をなすことを目的として開催された。受講者85名、うち出席良好者72名に対し修了証書を授与した。また本講習会期中、本館所蔵各種図書の展覧（5日間毎日陳列替）、GHQ図書館、府立図書館、京都大学法学部、文学部書庫の見学、討論会（2回）等を行った。

京都図書館学校昭和23年度教科目及び講師表

正 科 目

		(時間)		
読書指導法	30	京大図書館長	原	随園
図書館経営学(一般)	30	京都府文化課長	大佐	三四五
全 上(学校)	30	京大司書官	宮西	光雄
図書目録法及び実習(洋書)	40	京大司書	佐々木	乾三
全 上(和漢書)	40	〃	〃	水梨 弥久
図書分類及び実習(一般NDC)	20	〃	〃	鈴鹿 蔵
全 上(洋書DC)	20	〃 教官	谷口	寛一郎
全 上(漢籍)	10	〃 司書	佐藤	一雄
書誌学(一般)	20	阪大図書館嘱託	田中	敬
全 上(中国)	10	京大司書	佐藤	一雄
図書史	30	京大図書館嘱託	鈴鹿	三七
図書館史	30	菊花女専教授	竹林	熊彦
タイプライティング(欧文)	60	京大教官	谷口	寛一郎
実習(受入)	5	京大司書	武田	維明
全 上(原簿)	5	〃	〃	鈴木 正武
全 上(貸付)	10	〃	〃	佐藤 一雄
教育学	30	京大文助教授	下程	勇吉
社会学	30	〃	〃	重松 俊明
自然科学概論	30	京大理助教授	田村	松平
英文学史	30	京大文助教授	中西	信太郎
国文学史	30	三高教授	島田	退蔵
英語	60			
	前期30	京都女専教授	内田	毅一
	后期30	三高教授	大浦	幸男
独乙語	60			
	前期30	〃	〃	谷友 幸
	后期30	〃	〃	古松 貞一
仏蘭西語	60	京大文講師	林憲	一郎
	計			720

備考： 予定時数720時間は当年の電力・燃料事情による短縮と欠講時数を差引いて実授業時数623時となる

——特別講義——		(時間)		
文化と図書館	1	京大図書館長	原	随園
図書館利用法	2	天理図書館司書	仙田	正雄
学校図書館経営法	4	京大司書官	宮西	光雄

受入から貸付まで	4	阪大司書	木寺清一
和漢書目録法	4	阪大図書館嘱託	田中敬
洋書目録法	2	京都府文化課長	大佐三四五
目録編集法	2	関西大学図書課長	天野敬太郎
図書分類法	4	京大教官	谷口寛一郎
図書の蒐集と選択	2	京都府立図書館長	西村精一
英米図書館について	1	京大名誉教授	新村出
古写本について	1	京大文教授	沢瀉久孝
西洋典籍起源	1	ク	ク
経史子集	1	ク	ク
フィルムと図書館	2	映画批評家	清水光
ダンテ文献について	2	京大文教授	黒田正利
環境教育学	1	ク	ク
美と生活	1	ク	ク
稀観書解説	1	京大図書館嘱託	鈴木三七
図書館見学と討論	6		
	計	42	
合計	実授業時数	665時間	(開校日数158日)